



三井広報委員会

三井ゴールデン匠賞

第2回「三井ゴールデン匠賞」受賞者決定！ ～伝統工芸の世界にイノベーションを起こした、5組の匠を選出～ 3月20日（火）の贈賞式にて、受賞者の中よりさらにグランプリを発表！

「三井広報委員会」が主催し、伝統工芸の分野において革新的な取り組みをされている方を表彰する第2回「三井ゴールデン匠賞」の受賞者を決定いたしました。この度、ファイナリスト35組を対象に厳正なる本審査を実施し、5組（個人および団体）の受賞者を選定いたしました。

受賞者5組の中から審査員により「グランプリ」、および一般投票により「モストポピュラー賞」を各1組ずつ選定し、3月20日（火）の贈賞式にて表彰いたします。



【第2回「三井ゴールデン匠賞」受賞者一覧】（上記写真左より/五十音順）

- ・株式会社 玉川堂 代表：玉川 基行（燕鋤起銅器／新潟県燕市）※団体として受賞
- ・桐本 泰一 所属：輪島キリモト（輪島塗／石川県輪島市）
- ・齋藤 宏之 所属：株式会社 五十崎社中（大洲和紙／愛媛県内子町）
- ・中川 政七 所属：株式会社 中川政七商店（伝統工芸プロデューサー／奈良県奈良市）
- ・山本 篤 所属：株式会社 妙泉陶房（九谷焼／石川県加賀市）

【三井ゴールデン匠賞について】

日本の伝統工芸では、古来の技法や様式を継承しながら革新的なアイデアを取り入れ、さらに発展させている方々がいらっしゃいます。

三井広報委員会では、「伝統×イノベーション」の担い手に注目と称賛が集まる機会を創りたいという思いから、「三井ゴールデン匠賞」を創設し、表彰しています。

■詳しくはこちら <http://mgt.mitsuipr.com/>





三井ゴールデン匠賞

<第2回「三井ゴールデン匠賞」受賞者>

株式会社 玉川堂(ぎょくせんどう) ※団体として受賞

代表：玉川 基行 燕鉋起銅器／新潟県燕市

〈講評〉燕鉋起銅器を200年に渡って受け継ぐ老舗の後継者として、海外ブランドとのコラボレーションや異業種との新製品開発などに尽力。問屋との関係を見直し、百貨店との直接取引や直営店舗設立といった流通機構改革への実績が評価された。また、終業後は工場を職人に開放し、若手の技術訓練やベテランの作品創作にチャレンジする場として提供するなど、若手育成や技術力向上の環境を整え、世界最高峰を自負する技術・技能継承へのきめ細かな就業体制を作っている。



株式会社 玉川堂(ぎょくせんどう)
代表：玉川 基行



〈代表作品〉
鉋起和器 MOON

桐本 泰一(きりもと たいいち)

所属：輪島キリモト 輪島塗／石川県輪島市

〈講評〉江戸後期から続く漆器業の7代目。分業主流の輪島塗産地で、先駆けて木地、漆塗りの一貫生産を実現し、消費者ニーズへの対応に努め、長年にわたって産地の改革と活性化に取り組んだ実績が評価された。現代の様々な生活シーンに馴染む漆器や家具、建築内装材を国内外へ幅広く提案している。さらに、産地内の若手、中堅、漆芸研究所生徒等40数名を集めた「輪島クリエイティブデザイン塾」などの事業を推進し、後継者育成にも尽力している。



桐本 泰一(きりもと たいいち)
所属：輪島キリモト



〈代表作品〉
蒔地小福皿、千すじ小福皿

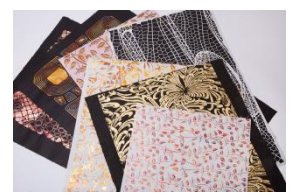
齋藤 宏之(さいとう ひろゆき)

所属：株式会社 五十崎社中 大洲和紙／愛媛県内子町

〈講評〉昔ながらの書道用半紙や障子紙が主流であった大洲和紙産地において、壁紙やタペストリーといったインテリア素材への進出を図り、新たな和紙のある生活を創出した。フランス伝統の金属箔技法ギルディングを取り入れた世界にオンリーワンの和紙や、地元商工会とともに開発したこより和紙など、デザイン性の高い和紙を次々に発表。新たな和紙需要の拡大に努めながら大洲和紙産業の活性化に大きく貢献していることが評価された。



齋藤 宏之(さいとう ひろゆき)
所属：株式会社 五十崎社中



〈代表作品〉
ギルディング和紙

中川 政七(なかがわ まさしち)

所属：株式会社 中川政七商店 伝統工芸プロデューサー／奈良県奈良市

〈講評〉家業である「中川政七商店」の自社ブランド確立と成長のノウハウを体系化し、様々な産地の工芸メーカーのコンサルティング業務を展開。一時的、部分的なメーカー支援ではなく、経営、ブランド構築、製品開発、販路開拓までトータルに支援することで根本的な改善に取り組み、企業の持続的成長へつなげている点が評価された。「日本の工芸を元気にする」というビジョンを掲げ、工芸からはじまる新たな価値の創出に力を注いでいる。



中川 政七(なかがわ まさしち)
所属：株式会社 中川政七商店



〈代表作品〉
花ふきん

山本 篤(やまもと あつし)

所属：株式会社 妙泉陶房 九谷焼／石川県加賀市

〈講評〉九谷焼の伝統工芸士。気品に満ちた作風は若手の信望も厚く、異業種とのコラボでも脚光を浴びている。その技術を継承するべく40年前の独立時より弟子をとり、職人を多数育成。さらに、若手作家を対象に自工房で研修を行うなど、後継者育成に力を注いでいる。また、県の工業試験場と磁器坯土(はいど)を共同開発するなど、原材料の確保や道具、機器の改良にも尽力。こうした九谷焼の発展を支える地道で幅広い活動が評価された。



山本 篤(やまもと あつし)
所属：株式会社 妙泉陶房



〈代表作品〉
黄磁釉 花瓶(菊)



三井ゴールデン匠賞

【審査基準】

革新性を基本に、技術・技能、独自性、有用性、持続性、国際性の5項目を審査基準とする。
審査項目においては持続性を最も重視する項目とする。

- ＜技術・技能＞ 卓越且つ革新的な技術・技能
- ＜独自性＞ 従来にはなかった新しい価値を生み出した革新的な取り組み
- ＜有用性＞ 伝統を活かしつつ更に有用な機能を付加した革新的な取り組み
- ＜持続性＞ 産業として持続性さらには市場拡大など未来につながる革新的な取り組み
- ＜国際性＞ 国際化の為にしている革新的な取り組み、または、今後の意思

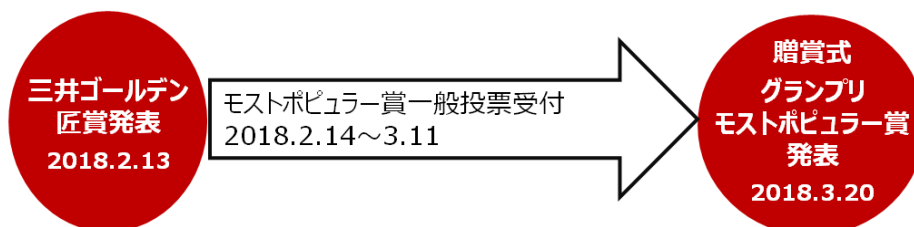
【審査員】

審査員長	大島 眞彦	三井広報委員会 委員長	三井住友銀行 取締役兼専務執行役員
審査員	赤瀬 浩成	メイド・イン・ジャパン・プロジェクト 代表取締役	
	赤沼 多佳	公益財団法人 三井文庫 三井記念美術館 参事	
	遠藤 充	三越伊勢丹 呉服・美術統括部 美術商品部 部長	
	佐々木 千雅子	一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会 相談員	
	佐藤 達郎	多摩美術大学 教授 コミュニケーション・ラボ 代表	
	ゾエルゲル・ニコラ	老舗梅干専門店「ちん里う本店」 役員	
	田中 里沙	事業構想大学院大学 学長 宣伝会議 取締役	
	能作 克治	能作 代表取締役	
	ボブ 田中	東北芸術工科大学デザイン工学部 教授 ボブ田中事務所 代表	
	水野 学	クリエイティブディレクター good design company 代表	
	矢島 里佳	和える 代表取締役	
	山田 遊	バイヤー 監修者	

【賞の種類／賞金】

- ・三井ゴールデン匠賞：審査員による厳正なる審査により若干名（個人または団体）を選出 賞金50万円
- ・グランプリ：審査員による厳正なる審査により三井ゴールデン匠賞受賞者の中から1名または1団体を選出 賞金50万円＜三井ゴールデン匠賞と合わせて計100万円＞
- ・モストポピュラー賞：インターネットでの一般投票により、三井ゴールデン匠賞受賞者の中から1名または1団体を選出 賞金20万円＜三井ゴールデン匠賞と合わせて計70万円＞

【今後のスケジュール】





三井広報委員会

三井ゴールデン匠賞

【佐藤 達郎氏（審査員、多摩美術大学 教授、コミュニケーション・ラボ 代表）コメント】

作品ではなく「人」を評価する。様々な形で活躍する数多くの応募者の中から。

審査会では、こうした特徴を持つ賞の「審査の難しさ」について盛んに語られました。

私自身は、この「審査の難しさ」こそが、この賞が今までにないものであることの証であり、存在意義の表れだと考えています。今回も結果として、活発な議論の末、審査員全員が納得して第2回三井ゴールデン匠賞の受賞者を選出できました。

今後も、応募して下さる皆さま、関係者の皆さまとともに、より意義深い賞にして行けることを願っています。

【三井広報委員会について】

三井広報委員会は、三井グループ企業24社で構成し、様々な文化活動および広報活動を通じて、国際交流や地域社会の活性化に貢献すると共に、社会の繁栄と福祉に寄与し、三井グループのより一層のイメージ向上を目指しています。

<主な活動>

「三井ゴールデン匠賞」の主催

「三井ゴールデン・クラブ賞」の提供

「三井ゴールデン・クラブ野球教室」の開催

■詳しくはこちら <http://www.mitsuipr.com/>

<三井広報委員会 会員会社一覧>



三井広報委員会

三機工業 新日本空調 三井住友建設 サッポロビール 東レ 王子ホールディングス
デンカ 三井化学 日本製鋼所 三井金属 東洋エンジニアリング 三井造船
商船三井 三井物産 三越伊勢丹ホールディングス 三井住友海上 三井住友銀行
三井住友ファイナンス&リース J A 三井リース 三井生命 三井住友トラスト・ホールディングス
三井不動産 三井倉庫ホールディングス エムサービス